

さめきの健康と元気をサポートする高松日赤だより

VOL.74

SUMMER 2025

ご自由に
おとりください

なんが でっきよんが



特集

がん総合診療センター始動!!

①フロアガイド

②当院の内科的がん治療

③「患者さんが主役」の治療をサポート



日本赤十字社 高松赤十字病院
Japanese Red Cross Society

がん総合診療センター 始動！

部屋が広く
リラックスできる



患者さんの声

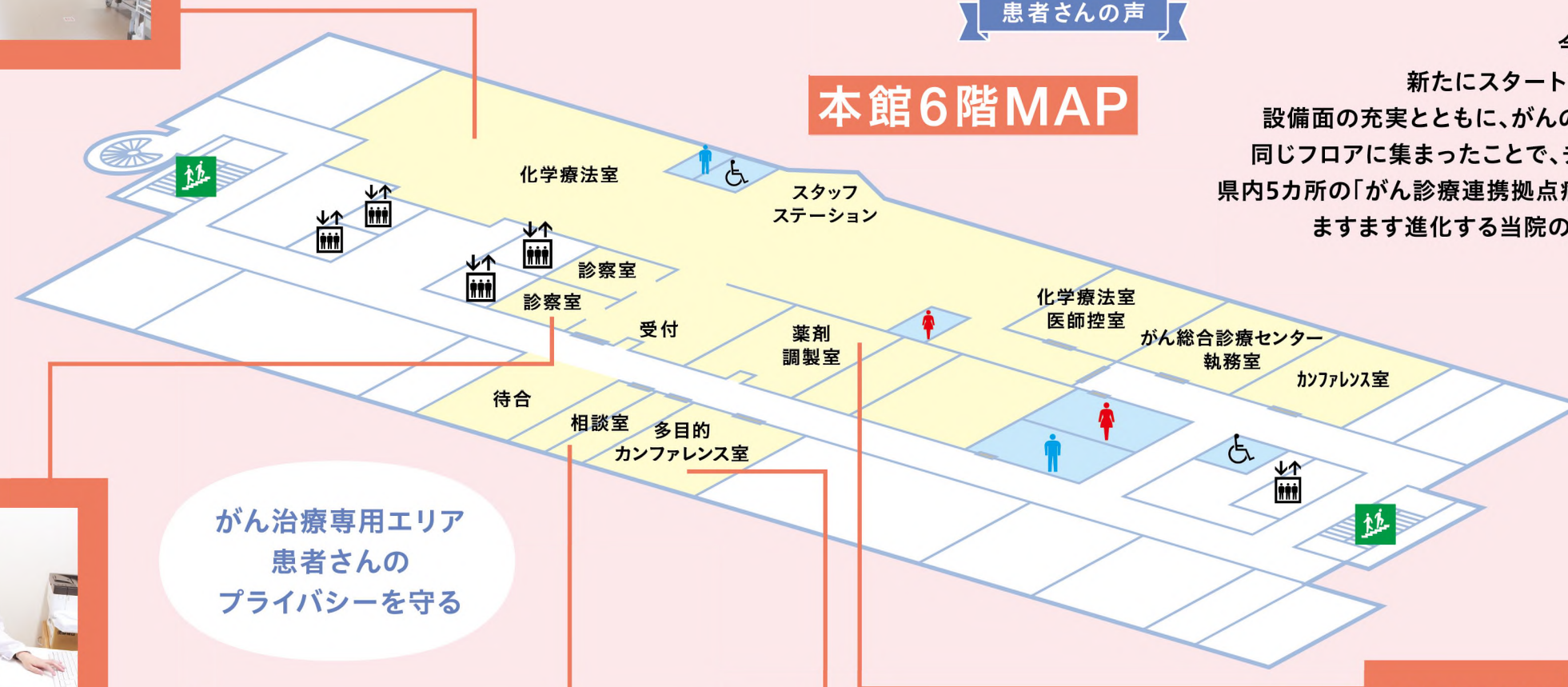
今年5月、本館6階を大幅に改装して

新たにスタートを切った「がん総合診療センター」。

設備面の充実とともに、がんの治療にかかわるさまざまな職種が
同じフロアに集まったことで、チームワークも大きく向上しました。

県内5カ所の「がん診療連携拠点病院」の一翼を担う医療機関として、
ますます進化する当院のがん診療の最前線をご紹介します。

本館6階MAP



がん治療にかかわる
多職種の連携がアップ！

化学療法室

化学療法室を大幅リニューアル。最大25人にゆったりと治療を受けていただける広いスペースが整いました。



専門エリアで
トータル対応
してもらえる
安心できる



患者さんの声

腫瘍内科

腫瘍内科の専門医が常駐し、総合的がん診療からゲノム医療外来まで広く対応。



がん治療専用エリア
患者さんの
プライバシーを守る

相談室

患者さん・ご家族のさまざまな相談に、がん相談支援センターや緩和ケアなどのスタッフが随時対応。



多目的カンファレンス室

がんサロンやがんピアサポーターによる相談会を行います。また、ウィッグ・カバー・メイクなど、治療の影響で見た目が変わることに関する心身のケア（アピアランスケア）を提案。



薬剤調製室

これまでは地下にあり、3階の化学療法室まで毎回人の手で薬を運んでいましたが、同じフロアになって抗がん剤を安全に清潔に調製する安全キャビネットも増台。迅速に個々の患者さんに合わせた薬を用意できるようになりました。



スタッフと
気軽に話しやすい
雰囲気になった



患者さんの声

がんが「長く付き合う病気」になりつつある時代、快適な治療環境を整えてがん患者さんの心身をサポートします。相談窓口も広くご活用ください。

副院長
山本 晃義（やまもと あきよし）
がん総合診療センター長

がんが「長く付き合う病気」になりつつある時代、快適な治療環境を整えてがん患者さんの心身をサポートします。相談窓口も広くご活用ください。

がん治療にかかわる多職種の連携がアップ！

患者さんがゆったり落ち着いて治療に集中できる空間が整っただけでなく、多職種の距離が物理的に近くなったことで、各部門がフットワーク軽く連携できるようになりました。各職種がこれまで以上に専門性を発揮し、外来診療の限られた時間を最大限活用して、患者さんにより精度の高い治療と安心を提供できるよう、チーム一丸で邁進していきます。

5月7日から本格始動した「がん総合診療センター」は、今後がん患者数が増えていくことを見越し、外来化学療法体制の大幅な拡大を軸として整備されました。抗がん剤などの点滴治療を行っていた本館3階・化学療法室の手狭さや、地下の薬剤調製室から薬を運ぶ時間がかかっていた動線の課題を踏まえ、これらの機能を移設・集約。さらに、総合的ながん診療の核となる「腫瘍内科」、院内外のがんに関する相談窓口「がん相談支援センター」、がんの治療に長く伴走する「緩和ケア」や、薬の専門家の薬剤部など、がん診療のエキスパートたちが一堂に会して、本館6階の約3分の2を占める一大拠点となっています。

患者さんがゆったり落ち着いて治療に集中できる空間が整っただけでなく、多職種の距離が物理的に近くなったことで、各部門がフットワーク軽く連携できるようになりました。各職種がこれまで以上に専門性を発揮し、外来診療の限られた時間を最大限活用して、患者さんにより精度の高い治療と安心を提供できるよう、チーム一丸で邁進していきます。

大幅な効率化を実現！
快適に過ごせる治療空間

外来で長く治療を受ける
がん患者さんが増加

がんの治療は、手術療法・放射線療法・薬物療法を組み合わせる最も効果的な治療を追求する「集学的がん治療」が現在の主流です。それぞれの治療法は年々進化し続け、特に薬物療法においては、従来の抗がん剤だけでなく、分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬といった新しい薬の使用も拡大してきました。

こうした薬は外来で投与でき、当院でも薬物療法を受ける外来患者さんの数がこれまで以上に増加傾向。長期間の投与が前提となるため、継続的な投薬治療に対応できる十分な環境が求められます。

5月7日から本格始動した「がん総合診療センター」は、今後がん患者数が増えていくことを見越し、外来化学療法体制の大幅な拡大を軸として整備されました。抗がん剤などの点滴治療を行っていた本館3階・化学療法室の手狭さや、地下の薬剤調製室から薬を運ぶ時間がかかっていた動線の課題を踏まえ、これらの機能を移設・集約。さらに、総合的ながん診療の核となる「腫瘍内科」、院内外のがんに関する相談窓口「がん相談支援センター」、がんの治療に長く伴走する「緩和ケア」や、薬の専門家の薬剤部など、がん診療のエキスパートたちが一堂に会して、本館6階の約3分の2を占める一大拠点となっています。

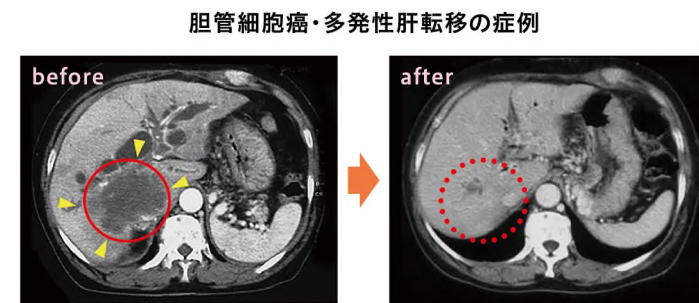
当院の内科的がん治療

腫瘍内科を軸に多診療科が連携 集学的がん治療と薬物治療

2021年に開設した当院の腫瘍内科。がんの中でも、転移していることはわかるけれど最初に発生した場所がわからない「原発不明がん」、症例がきわめて少ない「希少がん」、複数の臓器にまたがる「多重がん」など、各診療科の枠に収まりにくく診断が難しいがんに広く対応し、さまざまな種類のがんに関して、特に薬物治療の高い知見を持つエキスパートです。こうした知見と、他診療科との連携という総合病院ならではの強みを生かしながら、患者さん一人一人に合わせて手術療法・放射線療法・薬物療法を効果的に組み合わせるのが「集学的がん治療」。腫瘍内科はその中核となって、がんの診断～治療、治療に伴う副作用や苦痛の軽減といった「支持療法」まで、切れ目のないケアを行います。

手術・放射線分野と同様に、薬も日々目覚ましく進歩しています。従来の薬物療法に使われる抗がん剤に加え、「分子標的薬」「免疫チェックポイント阻害薬」「内分泌療法薬」といった種類が次々と増え、数年スパンで新しい薬が登場し、組み合わせによってさまざまな効果を発揮。10年ほど前に比べて患者さんの余命や予後が改善しつつあり、かなり症状が進行している患者さんが薬物治療によって手術を受けられるほどに緩和した例もあります。

がんの薬物療法には「ひどく嘔吐する」「髪の毛が抜ける」といったイメージが付きまといがちですが、近年は副作用を抑える薬も進歩し、心身の負担を軽減しながら治療を続けやすくなりました。「外来で治療を受けながら、がんと長く付き合う」患者さんが増えてきた時代、最新の薬を効果的に選択できるマネジメント力が当院の強み。患者さんにとっては治療の選択肢が増え、手術療法・放射線療法の効果を高めることもでき、副作用や整容面でもサポートできるという点で、治療にのぞむ際の安心にもつながっています。



胆管細胞癌・多発性肝転移の症例
65歳の患者さんの治療例。赤い丸で示した部分、治療前（before）は黒い影のように見えているがんが、薬物治療後（after）はほとんど消失していることがわかる。

支持療法とアピアランスケア

がんの症状や治療に伴う副作用・合併症・後遺症を軽減・予防し、できるだけ生活の質を守りつつ治療を継続するために行うケアが「支持療法」です。副作用などのストレスは患者さんの心身に負担をかけ、治療の効果を妨げる・治療の延期や中断が必要になるといったリスクがある一方、支持療法を早くから行えば治療効果を高める傾向があることもわかっています。



「アピアランスケア」は、当院が今後力を入れていきたい支持療法の一つです。治療の

過程で体毛が抜ける、肌の色が変わる、皮膚や爪の変化、手術の傷跡や乳房の喪失といった外見（アピアランス）の変化に苦痛を感じる患者さんは少なくありません。「自分らしさが失われた」「人の目が気になる」といった悩みに寄り添い、見た目を整える医学的・整容的サポートや自分らしくあるための心理的・社会的サポートを「アピアランスケア」と呼びます。治療が第一とはいえ、がんを外来でも治療できるようになり、生存期間も延びている近年、社会とのつながりを保つ上で「見た目」は重要な要素といえます。がん総合診療センターでは、スタッフ一人一人が患者さんの悩みを受け止めるとともに、ウィッグやメイクなど外見に関するケア商品の展示コーナーも設ける予定です。

遺伝子解析に基づく最新の治療 がんゲノム医療

がんゲノム医療とは、患者さんのがん細胞の特徴を「がん遺伝子パネル検査」で調べ、がんにかかわる多くの遺伝子のプロフィールから、その人のがんの性質や適切な治療法を探っていく医療です。検査結果を踏まえ、医師・看護師・臨床検査技師などの専門家が集まって、効果がありそうな薬や参加できる臨床実験・治験などを検討します。

2019年から一定の条件を満たせば保険適用となり、当院は21年4月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受けて、がんゲノム医療外来を開設。院外からの紹介も含め、年間40～50件のパネル検査を実施しています。

ゲノム医療の大きな特徴は、「合う治療法が見つければ、従来の抗がん剤よりはるかに高い治療効果が期待できる」こと。検査結果が出るまでに1カ月程度時間がかかる、適合する治療法が見つかる割合は10%程度、検査費用が高額といったハードルはありますが、治療に使われる分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の種類が増えてきたことも受けて、以前に比べるとスタンダードな治療法になってきました。検査精度の向上や結果が出るまでの時間短縮も、年々進んでいます。これまで当院では180人中21人に保険承認薬による新たな治療薬がみつきり治療効果をあげています。

将来的にはがん以外にも遺伝子情報を活用した治療がさらに進むと予測され、最新の治療に対応できる環境を引き続き整えていきます。



遺伝子カウンセリング

パネル検査の過程で、遺伝的に発症しやすいがんや、その他の遺伝性疾患の潜在的なリスクが明らかになることがあります。がんの場合、多くは生活習慣や環境など後天的な要因によるもので、遺伝性のがんは1割程度ですが、リスクの有無は自分だけでなく血のつながった身近な人たちにもかかわる情報。リスクを意識することで積極的な予防や検診につながる半面、「いつか発症するのかも」「身内は大丈夫だろうか?」といったストレスが日常生活の支障になることも…。

当院では、遺伝性のがんをはじめとする遺伝性疾患全般

や、遺伝に関する心配事を幅広く受け止め、適切な治療やサポートにつなげる遺伝子カウンセリングに対応可能な「臨床遺伝外来（臨床遺伝診療科）」を開設しています。不安を抱えて一人で悩まず、専門的な知見を持つスタッフにご相談ください。

〈臨床遺伝外来（臨床遺伝診療科）〉
診療日：毎月第2・4火曜日 14～17時（要予約）
問合せ先：がん相談支援センター
当院の患者さん以外も広く利用できます

緩和ケア
認定看護師が
対応します

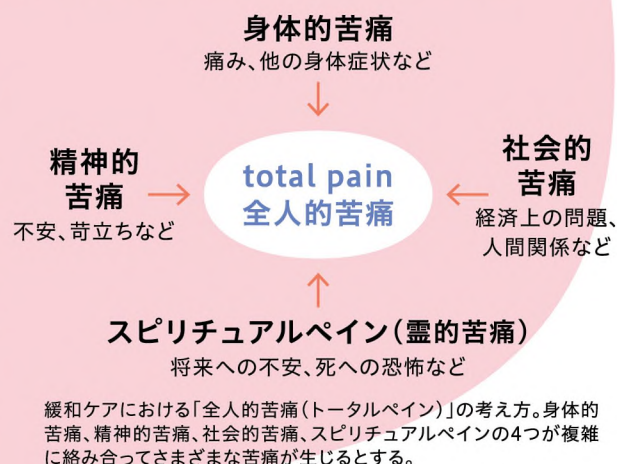


緩和ケア

患者さんの思いを汲み「苦痛をやわらげる」プロフェSSIONナル

緩和ケアという言葉は、治療ができないほど症状が進んだ患者さんに対する「ターミナルケア」のイメージが先行しがちですが、実際は患者さんご家族が自分らしく暮らせるよう、苦痛をやわらげるためのものです。診断当初から終末期まで継続的にかかわり、患者さんの心身の苦痛をできるかぎり取り除いて治療を続けられるよう医学的・専門的に支援しています。

当院のがん診療には多職種が集まる「緩和ケアチーム」があり、がん総合診療センターではチーム専従の緩和ケア認定看護師が相談対応に当たっています。病気のせいで今までできていたことができなくなるのは、患者さんにとってつらいもの。治療期の患者さんには、自分らしさを失わずに治療を継続できるサポートを。終末期の患者さんには、緩和ケアの本領である苦痛をやわらげるサポートを。一人一人とじっくりかかわりながら、患者さんの思いを傾聴して必要な支援につなげます。「つらい」症状や気持ちを我慢せず、一緒に緩和や解消を目指していきましょう。



緩和ケア
相談
月～金曜
午前中

薬剤部

薬のプロの網羅的な見地で安心・安全な治療を支援

がん以外の持病の薬を使いながら抗がん剤治療を受ける患者さんも多く、また今後はゲノム医療などが進み、薬の使い方そのものが変わっていく可能性もあります。そんな中で重要なのが「薬のプロ」である薬剤師の知見。薬を軸として各診療科を横断的・網羅的に見る立場から、さまざまなリスクを踏まえた適切な治療をサポートできます。センターでは、がん薬物療法認定薬剤師を中心に、入院・外来で長く治療を続ける患者さんの生活に深くかかわる支援を目指します。

薬剤調製室と化学療法室が同じフロアに隣接したことで、化学療法を受ける患者さんをお待たせすることなくスピーディーかつ安全に薬をお届けできるようになったのは、センター化による大きなメリット。薬剤師も点滴を受ける患者さんのベッドサイドでコミュニケーションがとりやすくなり、がん治療の専門家である腫瘍内科の医師や各部門との情報共有も、対面により迅速にできるようになりました。こうした体制の強化によって、薬剤師がより深く治療に貢献できる環境が整いつつあります。



カンファレンスの様子

上記窓口に限らず、センターのどこで・誰に相談しても、必ず適切な支援につなげるための院内連携が整っています。「こんなことを聞いていいのかな…」と迷わず、気軽にスタッフに声を掛けてください。一緒に解決していきましょう！

がん薬物療法看護認定看護師
岸下 礼子(きししたれいこ)



がん相談支援センター

院内外問わず、
がんに関する相談に予約不要・無料に対応



当院を含む「地域がん診療連携拠点病院」に、必ず設置されている窓口です。がんに関する悩みはさまざまで、一人で抱え込んでしまいがち。「主治医には言いづらい」「誰かにちょっと話を聞いてほしい」「今の不安をどこに相談していいかわからない」、そんな時はまずここを訪ねてみてください。窓口では、相談者のプライバシーや意向を尊重しつつ、がんに関連する不安や悩みに総合的に対応します。当院の患者さん・ご家族はもちろん、医療従事者を含む地域のどなたでも広く利用いただけます。

相談員は医療者と患者さんを中立的に支え、必要な支援につなぐ橋渡し役です。当院では国立がん研究センターのがん相談員基礎研修を修了した看護師2名とソーシャルワーカーを中心に、相談内容に応じて院内の各部門と連携し、患者さんが安心して治療や療養ができるよう支援しています。がん患者さん同士のグループ交流「日赤りぼんサロン」を継続しつつ、今後は一定の研修を受けたがん患者さんやご家族が「ピアサポーター」として個別相談に当たる体制も整えていく予定です。初めてがんに向き合う患者さんは、わからないことがたくさんあって当たり前。がんが「長く付き合う病気」になりつつあり、困りごとが多様化している中で、安心して治療を続けるために、相談窓口をご活用ください。



どこに聞けばいいかわからない時は
「がん相談支援センター」へ！

月～金曜 8:40～17:10(受付は16:30まで)
TEL:087-831-7101(代)
087-831-7109(直通)

受付 本館6階：がん総合診療センター受付(61番窓口)
本館1階：⑨番窓口、総合案内、患者図書室

事務部門

各部門の連携を支える縁の下の力持ち

他の部門と違って患者さんと直接接することは少ないものの、がんに関する相談、治療、最新医療に伴うさまざまな手続き・調整を総合的に行っているのが事務部門。センターに事務機能を設置したことで、センター内の困りごとにいち早く対応しやすくなりました。今後もスムーズな院内連携にはなくてはならない存在です。



がん診療が進歩し、普通に生活しながら治療を受ける患者さんも多くなったことで、患者さんが「仕事は続けられるのか」「外見の変化が気になる」「体力が落ちるのは嫌だ」といった日常生活における悩みを抱えることも増えています。がん総合診療センターでは、さらに深まった各部門の連携を活かして、患者さんの意向に沿った選択を専門的見地からサポートします。

乳がんの都市伝説?!

乳がん看護認定看護師 小國 紗織

「もう歳がいったから乳がんにはならないと思っちゃったわ。」「もう歳やから手術はせんやろ。」「検診には長いこと行ってなかったわ。自分で触って見つけたんや。」乳がんになった患者さん達と話しているとよく聞く言葉です。ほんとにそうなのか、一つずつ一緒に見てみましょう。

【年齢と乳がん罹患】

国立がん研究センターの統計では、日本人女性の乳がんは40歳台と60歳台あたりにグラフの山ができていて、罹る人が多いのが特徴です。そして70歳台80歳台とグラフは下降線をたどってはいますが、90歳台でも多くの方が罹っています。そうです、20歳台以降はどの年代でも、歳がいても乳がんになるんです。

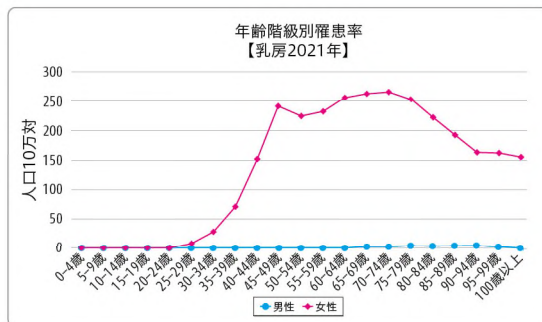
【年齢と乳がん手術】

そして、乳がんが進行すると出血したり浸出液が出てきたり皮膚にできもののような潰瘍ができたりします。そのため、日常生活に支障が出てくる人もいます。患者さんの生活を過ごしやすくするために、当院では医師が判断した手術可能な方では高齢の方も手術を行います。

ここまでのお話で乳がんは、高齢の人でも多くの方がかかること、手術などの治療を受けていることがわかりましたでしょうか。次回は乳がんの自己検診の方法についてお伝えします。

2人に
1人が
かかる

がんについて 知っておきたいこと。



お薬手帳活用していますか？

前回に続いてお薬手帳の活用についてお知らせします。皆さんのお薬手帳を拝見していると、血圧が書かれている手帳を見たことがあります。それは薬局の薬剤師さんが書いたものだと思えました。特に降圧剤等を服用されている方の場合、診察時に先生が測ってくれた血圧をご自身でお薬手帳に今日の血圧として書いてみるのも良いと思います。血圧以外の薬をもらいに來られた時、血圧手帳は持参されません。薬剤師はそのかたの血圧はどのくらいなのだろうと考えますが、ちょっと書かれていた数字でアッそうなんだと理解できます。

血圧に関わらずちょっとメモした体重、よく寝られた睡眠時間などもメモすると何かの時に役立つかもしれません。気づいたことをメモしてみましょう。



(一社) 香川県薬剤師会 担当: 安西 英明

かかりつけ 薬局 を持てば安心!!

① アン調剤薬局



丸亀市土器町東3丁目254-2
TEL: 0877-58-2507
FAX: 0877-58-2508



しょうじ眼科、みずたに皮膚科の隣にありますアン調剤薬局です。地域のみなさまの相談薬局になれるよう努力してまいります。在宅にも対応しておりますのでお気軽にお声掛けください。

② ぞうさん薬局



丸亀市土器町東4丁目737番地
TEL: 0877-64-9301
FAX: 0877-64-9302



もりもとこどもクリニックの隣のぞうさん薬局です。小児科の処方メインですが、御家族様の薬の相談にも応じています。その他介護の相談、市販薬のお取り寄せも可能です。

③ 京町薬局 丸亀東店



丸亀市土器町東7丁目876番
TEL: 0877-23-0789
FAX: 0877-23-0788



京町薬局丸亀東店は、さここ整形外科三浦内科みちこ小児科クリニックの隣の薬局です。地域の皆様の健康に貢献できるよう、日々努めております。どうぞお気軽にお立ちください。

④ めーぶる薬局



丸亀市土器町東九丁目156番地
TEL: 0877-21-4193
FAX: 0877-21-4192



県道33号線沿いに位置しており、今年で開局15年目を迎えます。地域の皆様に寄り添う薬局でありたいと思っております。処方薬以外にもお困りごとなど、お気軽にご相談ください。

⑤ なつめ調剤薬局



綾歌郡宇多津町浜五番丁56番9
TEL: 0877-85-6112
FAX: 0877-85-6113



宇多津町の宇多津病院の道向かいにある薬局です。薬剤師・事務員一同、患者様に貢献できるよう力を合わせて努めて参ります。土曜午後も開局しておりますので、ご入用でしたらご来局下さい。

⑥ アカネ薬局



綾歌郡宇多津町浜五番丁65番地
TEL: 0877-56-7552
FAX: 0877-49-7002



宇多津病院の門前薬局です。地域密着型の薬局を目指しております。薬に関する質問や相談はもちろん健康相談等も受け付けております。当薬局アプリの活用で、郵送でもお薬を受け取り可能です。

ナースの トップランナー

VOL.18

TOP RUNNER



感染管理認定看護師
鴻農奈央子

私はこの度、感染管理認定看護師となりました鴻農奈央子と申します。私たちは、これまで微生物やウイルスと共存してきました。新型コロナウイルス感染症の経験から学んだのは、感染症に対して「正しく知って・正しく恐れる」ことの重要性です。感染症はこれからも完全に消えることはありませんが、私たち一人ひとりができる対策を取ることで、その影響を最小限に抑えることができます。そのためには、多職種の協力が欠かせません。医療スタッフの力を活かし、院内感染を防ぐことで、患者さんが予定通りに入退院できる環境を整えることを目指しています。

また、啓発活動や教育を通じて、地域社会全体で感染症への理解を深め、対策を講じる事も重要だと考えています。地域の皆さまが安心して医療を受けられる環境づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

？ RSウイルス感染症の予防に用いる ワクチン・薬について

高松赤十字病院 薬剤部

○ RSウイルス感染症とは

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。また、慢性呼吸器疾患などの基礎疾患がある高齢者や免疫不全者が感染した場合にも、重症化することがあります。

○ RSウイルス感染症の治療について

対症療法が中心です。呼吸困難が強く現れた場合などは入院し、点滴、酸素投与などを行います。

○ RSウイルス感染症予防のワクチン・薬について

現在、60歳以上の成人、50歳以上で重症化リスクが高い基礎疾患がある人を対象としたワクチン、生まれてくる子どもの重症化予防を目的に妊婦さんを対象としたワクチンがあるほか、感染症の重症化リスクがある新生児・乳幼児を対象とした薬があります。

対 象 者	・ 60歳以上の成人 ・ 50歳以上で重症化リスクが高い基礎疾患がある人	・ 60歳以上の成人 ・ 妊娠24～36週 (特に妊娠28～36週)の妊婦	・ 早産児* ・ 先天性心疾患児、慢性肺疾患など特定の疾患をもつ乳幼児*	・ 早産児* ・ 先天性心疾患児、慢性肺疾患など特定の疾患をもつ乳幼児 ・ 基礎疾患のない乳幼児
種 類	不活化ワクチン		薬 (モノクローナル抗体)	
薬 剤 名	アレックスビー®	アブリスボ®	シナジス®	ベイフォータス®
接種回数	1回	1回	流行期に月1回	流行期に通常1回

*保険診療

はてな
くすり

vol.39



検査部 COLUMN vol.18



がんゲノム検査とは



がんゲノムとは「がん細胞の遺伝情報全体」を意味しています。近年では、このがんゲノムの異常を検査し、その結果をもとに患者さん一人ひとりに合った治療が行われています。今回のコラムでは、がんに関与する遺伝子やその検査について簡単に紹介します。

がんの発生に関与する遺伝子には、主に以下の2種類があります。細胞を増殖させるアクセルのような役割を持つ遺伝子に異常をきたすと、アクセルが踏まれたままの状態になることが知られています。このような遺伝子は「がん遺伝子」と呼ばれ、代表的なものに「RAS遺伝子」、「ALK融合遺伝子」があります。それとは逆に、細胞増殖を停止させるブレーキのような役割を持つ遺伝子は「がん抑制遺伝子」と呼ばれ、この遺伝子に異常をきたすとブレーキが利かない状態になることが知られています。代表的なものに「p53遺伝子」、「RB遺伝子」などがあります。その他にも、遺伝子に異常はなくても、その働きを制御する仕組みに異常があるとがんの発生に関与することがわかっています。上記の検査には、単一から複数の遺伝子を検査する「コンパニオン診断」や数百の遺伝子を広範囲に検査する「がん遺伝子パネル検査」があります。それらの

検査には患者さんから採取した組織や血液を使用しています。精度の高い検査を実施するためには、高品質の核酸（DNAやRNA）が必要となります。そこで、検査室では良質の核酸を効率よく得るために検体保管の温度や時間を管理し、がん細胞だけを選択的に回収するなどの様々な取り組みがなされています。



臨床研修指定病院として

卒後臨床研修センター長 南木 伸基

当院では臨床研修指定病院として、下記役割、理念、基本方針のもとに研修医を育成しています。

役 割

香川県における中核病院として質の高い医療を提供するために、資質の高い医療人を育成します。

理 念

患者中心の医療を実践するため、患者背景をも見据えた人間性を涵養する。救急、災害医療に強い医療人を育てる。

基本方針

次のような資質を備えた医療人を育成する。

- ① 人間性豊かな医療人
- ② 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人
- ③ 患者様の立場に立った医療を実践する医療人
- ④ チーム医療ができる医療人
- ⑤ 生涯学習をする医療人
- ⑥ 地域医療に貢献する医療人
- ⑦ 公的中核病院としての責務を自覚する医療人

具体的な指導方法のキーワードとして、啐啄同時を掲げています。鶏の雛が卵から生まれ出ようとするとき、殻の中から卵の殻をつついて音を立てることを「啐」と言います。そのとき同時に親鳥が外から殻をついばんで破ることを「啄」と言います。この「啐」と「啄」が同時になってはじめて、殻が破れて雛が産まれます。雛が健全に育成するには啐と啄がタイミング良く行われる必要があるように、師弟の関係でも教えを施す絶妙なタイミングがある、という意味です。

患者さんをはじめ、地域の皆さまにおかれましては、何卒温かい目で研修医を育ててくださることを切に願う次第です。よろしくお願いいたします。

今号の
表紙



一年目初期研修医



第12回

嚥下調整食 ～治療食の紹介編～



今回は、嚥下調整食についてご紹介したいと思います。

当院では、年齢や認知機能の低下とともに嚥下機能が低下したり、咽頭や食道の病気で飲み込む力が弱くなった患者さんに、嚥下調整食を提供しています。目で見て食べ物を認知し、口の中で噛み潰し、舌で食塊を作って喉の奥に送り、ごっくんと飲み込む。食べるという行為は、様々な筋肉が複雑に連動してはじめて成り立っています。

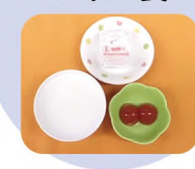
例えば、寝たままの姿勢で、顎を上に向けて食品を飲み込もうとすると、気道が開いて誤嚥のリスクが高くなります。また、サラサラの飲み物や、口の中にくっつきやすい食品、バラバラでまとまりにくい食品、水分が少なく粉っぽい食品などは嚥せやすい食品です。特に嚥下機能が低下した時には、姿勢や食べ方、食形態が重要です。

当院では摂食嚥下リハビリテーション学会の基準に沿って、下記の5段階の食事を提供しています。嚥下機能が低下していても、安全に口から食べる楽しさを感じていただける様、お一人お一人の嚥下機能にあった食べやすい食事形態での提供を目指しています。

嚥下訓練食品 離水のないゼリー



嚥下食① ゼリー食



嚥下食② ペースト食



嚥下食③ ソフトあんかけ食



嚥下食④ 5分あんかけ食





●高松赤十字病院の待合場所：

本館1階正面玄関付近

※出発時にはお声かけします。

※コンビニエンスストア内イトインコーナーも利用可能です。

●運休日：

土日祝日

5月1日(創立記念日)

年末年始(12月29日～1月3日)

●運賃は無料です

JR 高松駅 線		ことでん瓦町駅 線	
JR高松駅 → 病院	病院 → JR高松駅	瓦町駅 → 病院	病院 → 瓦町駅
JR高松駅 ⑪番のりば 発	高松 赤十字病院 発	瓦町駅 ⑥番のりば 発	高松 赤十字病院 発
7:45	8:08	8:03	7:55
8:25	8:47	8:42	8:35
9:25	9:47	9:42	9:35
10:05	10:27	10:22	10:15
11:20	11:42	11:37	11:30
12:00	12:22	12:17	12:10
12:35	12:57	12:52	12:45
14:30	14:52	14:47	14:40
15:20	15:42	15:37	15:30
16:05	16:27	16:22	16:15
17:15			17:25

番町地下駐車場のご案内

香川県番町地下駐車場のご利用方法(339台駐車可能)

- 当院は291台の駐車場を設けておりますが万が一、満車の場合は番町地下駐車場をご利用ください。番町地下駐車場の駐車案内動画をご用意しております。当院への近道をご紹介しますのでご参照ください。

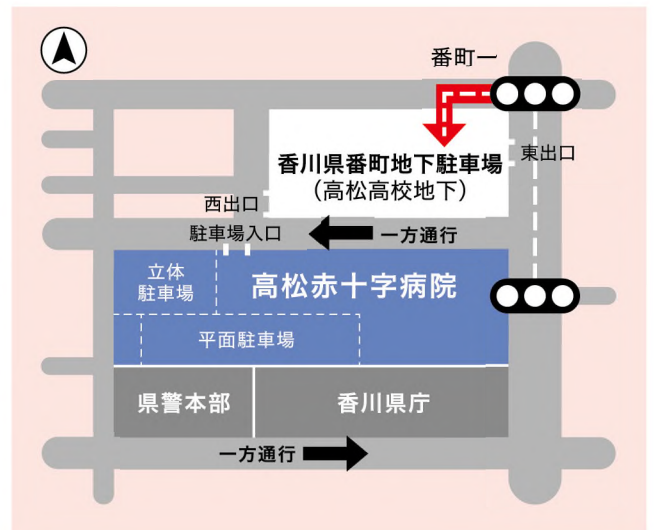


<https://www.youtube.com/watch?v=zmcF8TwZbUk>

- 番町地下駐車場(高松高校地下)をご利用の外来患者さんは、4時間10分まで(複数科受診の場合は5時間まで)無料、入院患者さんのご面会のため来院された場合、病院内の駐車場だと30分まで無料ですが、番町地下駐車場では50分まで無料となっています。

- お帰りの際に、外来患者さんは各科外来の受付、入院患者さんのご面会のため来院された方は、病棟の受付で駐車券に証明印をお受けになった後、必ず病院守衛室(本館1階)にて駐車券を提示のうえ割引処理をお受けください。

- 駐車場の利用時間は6:30～23:00までです。



外来診療のご案内

●診療受付時間

平日 8:00～11:00 / 12:00～15:00

※診療を実施していない科もありますので、ご注意ください。

●ホームページアドレス

<https://www.takamatsu.jrc.or.jp>

高松赤十字病院

検索



高松赤十字病院QRコード

●休診日

土・日・祝日、年末年始(12/29～1/3)

日本赤十字社創立記念日(5/1)

●お問い合わせ

Tel:087-831-7101(代表)

高松
赤十字病院
公式SNS



Facebook



instagram



LINE

なんがてきょう Webマガジン

なんがてきょうのバックナンバーは、特集ごとにWebマガジンで当院ホームページよりご覧になれます。気になる症状・病気があれば、いつでもどこでもパソコンやスマートフォンからチェックしてください!

<https://www.takamatsu.jrc.or.jp/magazine/>



病院敷地内
全面禁煙です。
ご理解とご協力をお願いいたします。